

各種活動・大会のレポート

報告者：ユースダイレクター 石井知幸

日頃は、静岡県サッカー協会活動に関しまして、ご協力いただき厚くお礼申し上げます。
11月28日（木）に開催されました、技術委員会での活動報告について、レポートにしました。

NTC U13 U14 後期9地域対抗戦

■日時：11月21日（木）～24日（日）

■場所：堺J-Green

■参加チーム：U14 9地域+アカデミー選抜

U13 9地域（関東 関西は2チームずつ）+アカデミー選抜

■試合形式：U14 11人制 30分ハーフ U13 8人制 20分ハーフ

■参加選手：U14

牧野 恋音 GK	ジュビロ磐田	伊藤 駿光 FP	エスパルス
中岡 駿汰 FP	アスルクラロ	曾根 大和 FP	藤枝東FC
吉田 峻 FP	エスパルス	鈴木 魁人 FP	エスパルス
滝 裕太 FP	エスパルス	（16人編成 内7名静岡）	

U13

佐藤 耕誠 FP	アスルクラロ	徳永 悠大 FP	ジュビロ磐田
松岡 遼太 FP	ホンダFC	監物 拓歩 FP	エスパルス
水野 颯太 FP	常葉橘	（11人編成 内5名静岡）	

■感想および意見

・U14

攻守ともにボール保持者の状況によって、ポジションを変えることが出来ていた。その結果選手同士の距離間もよく、攻撃ではタイミングの良い背後への飛び出し、1タッチプレーの立ったコンビネーション、ドリブル突破などが見られた。守備についても、チャレンジした後のカバーリングでボールを奪うプレーができていた。選手個々のタレントでは、多少見劣りもするがチームとしてはしっかり機能していたと感じた。

補足として、技術委員会で意見がでたように、育成年代では、選手個々のもつ特徴をしっかりと観察、理解し、組織（戦い方）のなかに個人を組み込むのではなく、選手の特徴、個性を生かしつつ組織的なサッカーを落とし込むことを忘れないようにしなくてはならない。（順番を間違えないように）

・U13

U13は8人制で実施された。狭いエリアでの試合なので、選手個々のもつテクニックに関しては、ごまかしがきかなかった。東海（静岡）の選手レベル（タレント性）は、関東、関西レベルと比べると1ランク下と認めなければならないのが現状だった。テクニックに優れ、体格にも恵まれている選手の育成、発掘は簡単ではないが、テクニックを土台に特徴のある選手育成を、地道に確実に行わなければならないと感じた。

中体連トレセン視察

■感想および意見

トレセン視察に関しては、4種5支部18地域の視察と同時に、3種中体連のトレセン（支部単位 地域単位）を視察する中で、中体連のトレセン活動に関わってくれている中体連の先生や指導者に、指導に対するパワーを感じる。

中学校人事の難しさもあると思うが、熱心に継続的に指導することで、指導者、選手のレベル向上につながると思う。選手個々をみても、可能性のある選手が存在し、中体連の多くの指導者が、これからも積極的に種別を超えた指導活動に関わってもらいたいと思う。

国体選考会（アカデミー選手の参加）

■感想および意見

11月24日（日）に来年度の国体強化練習会が実施され、アカデミー福島の選手も参加し、静岡県国体候補選手として藤枝明誠との練習試合を行った。アカデミーの選手は、初めてのチームメイトとプレーするにもかかわらず、試合中での指示の声、プレーに対する要求など、しっかりコミュニケーションを取りながらプレーしていた。試合を見ていて、アカデミーの選手が参加することでの他選手、チームへのメリットを感じることができた。

全国高校選手権 静岡県予選決勝

■感想および意見

藤枝東 v s 桜が丘の決勝を見られた方は、この試合のサッカーの質に対してどのように感じただろうか？単独チームの戦い方に多くを要求することはできないが、最終ラインから前線にロングボールを多用し、相手陣内でこぼれたボールを攻撃につなげる展開が、多くの時間を占めていた。予選決勝で負けたくない、リスクを負いたくない気持ちは非常に理解できる。技術の低い選手が多かったからか？チームとしての戦い方なのか？決勝の舞台の精神的なプレッシャーなのか？いろいろな要素がサッカーの質を少し低くしてしまったと感じた。

注目度も高く、多くの観衆がスタジアムに足を運んでくれる素晴らしい舞台で、質にこだわったサッカーが展開できるような指導育成を目指したい。（ミスを恐れない。結果を怖がらない。）

4種大会（U10 U11 U12を視察して）

□U12 ろうきんカップ

■日時：9月7日（土）8日（日）

■参加チーム：18地域トレセン

■場所：富士川緑地公園

□U11 しずてつストアカップ

■日時：10月19日（土）20日（日）

■参加チーム：18地域トレセン

■場所：富士総合公園陸上競技場 外神スポーツ広場

□U10 しんきんカップ

■日時：11月17日（日）24日（日）

■参加チーム：東部10 中東部3 中部4 中西部5 西部10

■場所：富士総合公園陸上競技場 愛鷹広域公園多目的競技場 他

■感想および意見

U12の大会を視察して、無駄な LOST BALL が多いと感じた。特にオンの選手がボールを失う場面が多かった。原因をあげればいろいろとあるが、原因の一つとして、ボール保持者のイメージがU10 U11年代で出来ていたような、ドリブル突破やボールキープのまま変わっていないのではないかと思う。もちろん、すべての選手があてはまるものではなく、ドリブル、ボールキープに特徴あるプレーをみせる選手も存在する。巧い選手達のプレーを観察すると、相手の状態や味方を観るためにゆったりプレーしているように感じる。（プレースピード）また、ボールを保持しながら自分自身の視野を、ターンをうまく使って幅広く作っている。「観て」「感じて」「判断」する為に、少しスピードをコントロールし、ターンを使って視野を変えることが、オンの選手のプレーの幅につながるヒントになるのではないだろうか。

オンの選手への働きかけと同時に、オフの選手（サポートの質）の働きかけも大切な要素になる時期と感じる。